393
613

地震約款ト牽強責任

始

地震約款ト擧証ノ責任

393-613

地震約款ト擧証ノ責任

北田彦三郎

著者寄贈本

最近十數年間ニ於テ、世界文化國ニ於ケル、火災保險事業ハ、一再ナラザル、大震火災ノ襲來ニヨリ、事業上ノ基調ニ、大動搖ヲ惹起シタノデアル、ソレハ、單ニ火災保險業者ガ、直接ニ其都度、被保險者ニ對シ、支拂ヒタル金額ノ、多大ナリシガ爲ノミデハナク、ソレヨリモ、モツト恐ルベキコトハ、間接ニ火災保險業者ガ、其主業ノ基本トモ謂フベキ担保危險ノ範圍ヨリ、地震火災ノ除外ヲ、規定シタル、唯一ノ信條タル、地震約款ヲバ、周圍ノ事情ニヨリ、殆ンド公然ノ秘密ヲ以テ、其實際上効果ヲ、蹂躙シ去ラレントスルヤウナ、有樣ニナリツ、アルトイフコトデアル、殊ニ、

正業
13. 3 13
寄贈

大正十二年九月ニ起ツタ、我關東大震災直後ニ、生ジタ事情ニ徵シ、今後我國ノ他ノ都市ニ、同樣ノ出來事ガアツタナラバ、一体、我國ノ火災保險事業ノミナラズ、直接間接ニ、危險ヲ分担シテヲル、世界各國ノ火災保險業者ハ、果シテ、如何ニ成行クモノデアロウカ、誠ニ寒心ニ堪ヘナイ次第デアル、ソレデ、我輩ハ、慨然トシテ、自ラ立チ、斯業ニ殉死スル覺悟デ、未熟ノ研究デハアルガ、聊自已ノ意見ヲ陳シテ、大方ノ高敎ヲ仰ギタイト思フノデアル。

一体、我々保險業者ガ、火災保險契約ヲ締結スルトキニ、如何ナル考ヲ持ツテオツタカ、我々ノ間ニ、地震ヨリ生ジタル、一切ノ火災危險ヲ、負担スル積リデアツタカ、コレハ、明ニソウデハナイ、ソレハ、保險約款ニモ、被保險者ノ申込書ニモ、危險負担ノ對價タル、火災保險料ニモ、一切明瞭ニナツテオルノデアル。

然ルニ、事實上、一旦大震火災ニ見舞ハレルト、種々ノ現象ガ起ル、根本的ニ、保

險者ト被保險者トガ約束シタル、保險証券ハ、法律上無効デアルトカ、約束シテナカツタガ、「コノ際」デアルカラ、見舞金ヲ出セトカ、種々ナ社會相ガ出顯スルノデアル。

火災保險ト、地震火災損害ト、如何ナル關係ニ立ツカト謂ヘバ、各國ニ多クノ判決例ガアツテ、其要旨ハ、皆一致シテヲル、即チ、火災保險ハ、地震損害トハ、何等ノ關係ハナイ、地震カラ起ツタ損害ハ、其形態上ノ發顯ハ、燒失ノ外觀ヲ呈スルガ、コレハ、現行ノ火災保險ノ、根本觀念ニ徵シ、保險トイフ範圍カラ除カレタモノデアル、(勿論、英米ニ行ハル、、附加保險料ノ徵收ニヨリ、特ニ、此危險ヲ負担スル、保險業者ガアレバ、ソレハ、別問題デアルガ)近代的ノ、火災保險業ノ、根幹トナツテヲルモノハ、(一)、危險ノ測定、ヲナシ、ソレニ、適應シタル對價、即チ、保險料ヲ、徵收スルコト、(二)、保險者ハ、其引受ケタル危險ノ、適當ナル配置ヲナシ、コレ

ニヨリ、始メテ、規律アル保險營業ノ可能性ガ、生ズルノデアル、今、地震トイフ、自然現象ヨリ生ズル、火災損害ハ、其出顯ガ、全然不定デ、蓋然率ノ算定ガ、出來ナイカラ、從テ(一)ノ危險測定ガ出來ズ又、其襲來スル區域ガ、比較的廣汎ナルガタメ、(二)ノ危險ノ適當ナル配置ガ、實行不可能トナルノデアル、ソレ故、保險事業ガ、一種ノ、投機事業デ、ナイ限リハ、到底、合理的ニ、地震保險ハ出來ナイ、從テ、地震損害ニ對スル、經濟上ノ結果ニツイテハ現今ノ火災保險營業組織ニ於テハ、保險保護ノ可能性ハナイト謂フベキデアル。

保險技術上ノ、此ノ觀念カラ、現時ニ於テハ、各國ノ、火災保險約款ニハ、多少、強弱ノ差違コソアレ、(後ニ詳述ス)地震ヲ除外スル、所謂地震約款トイフモノガ、儼トシテ存在シテヲルノデアル、然ルニ、過去數次ノ、大震災ノ經驗ニ徵スルト、此明々白々タル、除外條項ガ、十分ニ、火災保險者ヲ、保護スルノ、實効ヲ擧ゲ得ナカツタノハ、實ニ遺憾至極ノ次第デアル。

ソレハ、何デアルカ。

如何ニ完全ナル、地震約款ヲ作ツテモ、如何ニ明白ニ、地震危險ノ除外ヲ、被保險者ト、約束シテモ、過去數回ノ、大震災ノ經驗ニ徵スルト、火災保險業者ノ義務ガ、全然免除セラルヽトイフコトハ、出來ナイ、地震約款ガ、事實上、全然其眞價ヲ發揮スルニハ、大体、三ツノ重要ナル、原動力ノ一致ヲ要スル、ソレハ、(一)、法理上ノ正當ナル解釋、(二)、公正ナル輿論、(三)、同業競爭ヨリ生ズル、商略ノ禁遏、デアル。

法理上ノ、正當ナル解釋、ニツイテハ、後ニ之ヲ詳述スベシ、次ニ輿論ヲ、公正ニ導クコトハ、實ニ、至緊ノ大道デアル、關東大震災ノ如キ、非常ナル大變災ニ、直面スルトキハ、一般人心ノ激動ヲ生ジ、遂ニ、矯激ナル輿論、ヲ釀成スルコトハ、千九百六年四月十八日、ニ起リタル、桑港大震災、繼テ、仝年八月十八日、「ヴアルパラ

イソ一」ニ起リタル、大震災ノ、經驗ニ徵シ、免ルベカラザル、人心ノ歸趨デアル、然レドモ、冷靜ニ、考察スレバ、公正ナル輿論ハ、大衆保護ノ理法、ヨリ推釋シテ、寧ロ、反對ニ、保險者ニ、不拂ヲ强要セネバナラヌ、何トナレバ、此場合ニ於ケル、事實ノ眞相ハ、罹災被保險者ト、其他ノ、ヨリ以上、大多數ナル、被保險者トノ、利害關係ノ衝突、デアルカラデアル、之ヲ、歐州ニ行ハレテヲル、相互火災保險會社ノ、實例ニ徵スルト、一層明瞭ナル、判斷ヲ導キ得ル、相互火災保險會社ノ、一部分ノ會員ニ對シ、當初ヨリ、担保ノ約束モナク、何等、法律上ノ責任モナキ危險、ニ對シ、他ノ多數ノ會員ガ、自己ノ財資ヲ空フシ、將來、當然自己ノ要求スベキ權利、ノ行使ヲモ、一切犧牲ニシ、之ガ支拂ニ、甘ンズベキカ、若シ、斯ノ如キ支拂ヲ、繰返スナラバ、當初ヨリ、相互組織ノ、火災保險ヲ經營スルノ意思ハ、焉クニアルヤト、論ゼザルヲ得ヌ、此ノ大衆保護ノ原則、ガ公正ナル輿論、ノ眞諦ヲナスナラバ、寧ロ、

保險者ヲ强要シテ、不當ナル支拂ヲ阻止シ、爲メニ、正當ナル支拂、ニ際シ、支障ナカラシムルヤウ、常ニ嚴重ナル、監視ヲナスノ傾向ヲ、作ルベキデアル、ト思フ。

次ニ、同業競爭ノ心理ハ、遂ニ、法律約款ヲ超越シテ、支拂ヲナスモノヲ生ゼシメ、其結果、所謂、自由賠償、ノ名ノ下ニ、多額ノ支拂ヲ、余儀ナクセシメ、爲ニ、倒產ノ悲運ニ會スルモノヲモ生ジ、其結果、他ノ多數被保險者ヲシテ、其財產保護ノ實、ヲ失ハシメタル先例ハ、彼ノ桑港大震災ノ事實ガ、殷鑒ヲ示シテヲル、昊天ノ下シタル、異常ノ大禍殃ニ對シテ、人、各々、自ラ、嚴肅ニ戎愼シ、其間、毫モ商略ヲ加味スベキモノデハナイ、自己ハ純粹ナル火災保險業者トシテ、其營業ノ基調ヲナスベキ、根本理法ニ立脚シ、勿論、其守ルベキヲ約シタル、約款ヲ守リ、常ニ、合理的ニ行動シテ、他ヲ顧ミナイ、コトガ、勿論、保險業者ノ責務デアル。

從來、各國ノ火災保險會社ガ、採用シタル、所謂地震約款ニ、二樣ノ成型ガアル、

仮リニ、獨逸學者ノ名ヅクル所ニ從ヘバ、一ヲ弱型、(milde Form) ト稱シ、一ヲ、鋭型、(Scharfe Form) トイフ、弱型トイフノハ、火災保險約款ニ於テ、地震危險ノ、免責條項ヲ、規定スルトキニ、「地震ノ結果デアル所ノ損害」(Schaden vor welchedie Folge eines Erdbebens sind) トイフ文字カ、若クハ、「地震カラ原因セラル、所ノ損害」(Schaden welche von einem Erdben verursacht wurden) トイフ文字ヲ、用ヒタモノデアル、此種ノ約款ハ、英佛獨墺以外ノ、歐州諸國ト、埃及並ニ、地中海沿岸諸國、ニ於テ、多ク採用セラレテヲル、鋭型トイフノハ、同ジ免責條項中ニ、明カニ、「地震ノ直接及ビ間接火災損害」(direktenund indirekten Feuerschaden eines Erdbebens) ヲ、保險カラ除外スルト、記シテアル、此鋭型ノ中デ、最モ强キモノニナルト、(例ヘバ、獨逸ノ如キ、) 地震中ニ起リタル、火災損害ニツキテ、地震ト火災トノ間ノ、因果關係ヲ、保險者ニ於テ推定シ、從テ、被保險者ニ、舉証ノ責任ヲ負ハスモノモア

ル、鋭型ヲ採用スルモノハ、前掲ノ歐州諸國、及ビ「バルカン」諸國デアル、此二型ノ間ニ介在シテ、稍々變型ノモノモアル、ソレハ、間接損害ニツイテハ、明文ヲ以テ除外シテナイガ、地震ノ間、若クハ地震直後ニ、起ツタ火災損害ニ對スル、舉証ノ責任ヲ、被保險者ニ、負ハスモノデ、コレハ、瑞典ナドデ、行ハレテヲルモノデアル。

我國ニ於テ、一般ニ行ハル、火災保險普通約款ハ、第十七條ニ、「左ニ掲グル損害ハ、當會社塡補ノ責ニ任ゼス、」ト前提シテ、「原因ノ直接ナルト、間接ナルトヲ問ハズ、地震又ハ噴火ノ爲メニ生ジタル、火災及其延燒、其他ノ損害、」ト規定シテアルカラ、前ニ擧ゲタ、獨逸學者ノ分類、ニ從ヘバ、鋭型ニ屬スルモノデアル、而シテ、獨逸ノ約款ニ比シ、我國ノ約款ガ、遙カニ完全デアルノハ、獨逸ノ約款、及保險契約法、(八四條) ニ於テハ、地震損害ヲ、「戰爭、暴動、其他ノ事變、ノ爲メニ生ジタル、火災損害、」ト同一文面ニ、列擧シテアルガ、苟モ、地震損害ノ屬性ト、戰

爭其他ノ除外危險、ノ屬性ニツイテ、精細ナル考察、ヲ下ストキハ、兩者ノ混淆ヲ、避ケルタメニ、地震ニ關スル、法文上ノ分離ガ、必要デアル、戰爭暴動其他ノ事變、ヨリ起ル損害、ヲ火災保險ヨリ、除外シタル理由ハ、是等ノ事變ニ基ク損害ハ、法理上ヨリ謂ヘバ、國家社會ニ、義務ヲ構成スベク、之ニ反シテ、地震ノ如キ、特別ナル自然現象、ヨリ生ズル損害、ノ賠償義務ヲ、保險ヨリ除外セントスル所以ハ、其事故ノ發生ガ、全然、測定スルコトヲ得ザルガ故ニ、合理的保險營業ヲナスモノニハ、到底、負担ノ不可能ナルガ故デアル、此二種ノ、異ナリタル性質、ヲ有スル危險要素ヲ、同一文面ニ規定スル結果、法律ノ適用上、往々裁判官ノ心証ニ、惡影響ヲ與ヘ、一方辯護士ヲシテ、法律解釋ノ技巧ニヨリ、地震約款ノ効力、ヲ傷ケシムルノ虞ガアルカラデアル、依テ無用ノ訴訟提起、ヲ防グ爲メニ、我輩ハ、先ヅ、我地震約款ノ研究、ヲナサネバナラヌ、地震約款ノ研究、ニ先チ、約款ニ謂フ所ノ、「地震」ノ意義ヲ、保險業者ハ、保險技術上、及ビ法律上、如何ニ解スベキカ、ノ問題ニ入ラネバナラヌ、即チ。

「地震」ノ定義

ヲ確定セネバナラヌ、地震ノ定義ハ、大震災ノ勃發、ニ際シテハ、不思議ニモ、一般ニ忘レラレ、其適用ニ際シテハ、保險者ハ、其法律上ノ正當ナル解釋ヲ奪ハレ、保險技術上、及法律關係上、ノ觀念ガ、全然、無視セラレル、ノデアル、地震トイフ、物理的ノ現象ガ、保險契約上ノ意味ニ於テ、認メラルルノハ、此現象ガ、火災保險者ガ、担保シタル危險、ニ對シ、事實上ノ損害、ヲ生ジ、若クハ、危險ノ增加、變更ヲ、生ジタルトキニ、始メテ認メラルルノデアル、若シモ、地震トイフ、單ナル物理的現象、ガ生ジタトシテモ、コレニヨリ、担保物件ニ、何等ノ變態ヲ生ジナカツタナラバ、火災保險契約上、何等認ムル所ガ、ナイノデ、必竟、我輩ガ、「地震」トイフハ、保險技術上、作ラレタル、擬制的觀念、(fiktiver Begriff) デアル、保險契約上ニ於ケル、

意義ニ於テノ、「地震」ハ、一定ノ範圍内ニ於テ、（震災區域内）、地表上、又ハ、被保險物件タル、建造物ニ對シ、認識セラレ、若クハ、測定セラルベキ、損害或ハ變更、ヲ惹起スルノ作用ヲ、ナスモノデアル、之ヲ稱シテ、學者ハ、地震ノ强度、(Intensitat) トイフ、故ニ、保險契約上、「地震」ノ觀念ヲ、確定スルタメニハ、一定ノ「强度」、ヲ必要トスル、モノデアル。

次ニ、保險契約上、「地震」ノ觀念ヲ、確定スルタメニ、尙一ツノ要素ヲ、必要トスル、ソレハ、一定ノ「繼續」、(Dauer) デアル、經驗ノ敎ユル所ニヨレバ、地震ノ衝動ト、地震中ニ起ツタ火災、トノ因果關係ヲ、精確ニ立證スルコトハ、擧証ノ責任ガ、保險者ニアルモ、將タ被保險者ニアルモ、何レニスルモ、事實上、殆ンド不可能、ノコトデアル、學說ニヨルト、震動ガ、二秒以上モ、繼續スレバ、火災ノ多數ヲ、原因スベキ、可能性ガアル、トイフコトデアル、（九月一日關東大震災、ノトキハ、初期

微動、繼續時間十三・九秒、振幅四寸、波動六寸、振幅ノ週期ハ約二秒、）サレド、個々ノ場合、ニツキ檢査シテ、此火災ハ、正ニ地震中ニ、起ツタモノデアル、トイフコトヲ立証スルノハ、保險者ニ於テ、非常ナル難事デアル、然カモ、法ノ解釋ヲ、器械的ニナシテ、一地震ノ最後ノ衝動ヲ以テ、瞬時ニ、約款上ニ認メタル、地震ト火災トノ、因果關係ノ推定ヲ、劃定シテ、原因不明ノ火災ト、ナスニ至ルトキハ、到底、事ノ眞實ヲ明ニスルコトハ出來ナイ、我國ノ如ク、擧証ノ責任ヲ、保險者ニ負担セシムル國ニ於テハ、或ハ被保險者庇護、（曲庇）ト謂フコトガ、出來ルカモ知レヌガ、若シ獨逸ノ如ク、法律ノ規定ガ、擧証ノ責任ヲ、被保險者ニ負ハス國デハ、却テ被保險者ヲ苦シムルコトニナル、今一歩ヲ進メテ、後日我國法ノ改正、ガアツテ、擧証ノ責任ガ被保險者ニアル、トイフヤウニナレバ、如何スルカ、大ニ考フベキコトデアル、（擧証ノ責任、ニツイテハ、後ニ詳述ス）

地震ノ定義ヲ、確定スルニツキ、モー一ツノ、擬制ヲ認メ、ナクテハナラナクナツタ、大震災ハ、其性質上、個々ノ、短カキ震動ガ、時トシテハ、數日、又ハ週間、ニ亙ル、特徴ガアルカラ、（九月一日關東大震災、ニテハ、一日午前十一時五十八分四十五秒ノ發震以來、ソノ後ノ十二時間ニ、人體ニ感ジタ餘震、百十四回以上、次ノ十二時間ニ、八十八回、次ニ六十回、次ニ四十七回、）近時ニ於ケル、保險契約上ノ意義ニテハ、寧ロ、震災ガ、間歇的ニ發作シタルモノヲ結合シテ、コレヲ相互ニ、時間的關係ヲ有スル、單一ナル一震災ト看做サヲバナラヌヤウナ傾向ニナツタ、故ニ保險技術上ノ意義ニ於テ、「地震」ナル觀念ノ内容ニ、「一系統ノ連續的震動、」ヲ結合スル、時間的關係ノ擬制、即チ、前既ニ述ベタル、「繼續」トイフ屬性、ヲ認メタノデアル。

以上論述シタ所ニヨリ、保險技術上ノ擬制、ニ於テ地震ノ觀念ニ、「强度」ト「繼續」トノ二屬性、ヲ認メシニヨリ、約款ノ解釋上、有効ナル結果ヲ來シ得ベキコト ト信ズ、更ニ近代各國ノ、地震約款ニ於テ、保險者免責ノ規準トナルベキモノハ、地震ト火災トノ因果關係、デアル、所謂因果關係ナルモノニ、二アリ、其一ハ、直接因果關係デ、コレハ前既ニ述ベシ如ク、苟モ地震ノ除外條項ヲ認ムル國ニ於テハ、何レモコレヲ明記セザルモノハナイ、唯然シ、約款上、「地震ニ因ル直接損害」トイフトキハ、訴訟ノ場合ニナルト、較モスレバ、一ノ抗辨ノ材料トナリ易イ、「地震ニ因ル損害」ナレバ、純粹ナル震害、換言スレバ破碎損害、ノミヲ包含スルモノデ、地震ニ因リテ起リタル火災ノ損害、ヲ包含セナイトイフコトデアル、斯ノ如キ解釋ハ、勿論當事者ノ意思ヲ、正當ニ認メタ、モノトハ云ヘヌガ、大震災ニ直面スルト、司直ノ府ト雖モ、較モスレバ、罹災者ニ、同情ノ涙ヲ灑ギ、保險者側ニ、多少ノ疑点アルトキハ、被保險者側ニ有利ナル、判決ヲ與ヘントスル傾向、ガアルカラ、保險者ハ、豫メ

之ニ備ヘテ、其文字章句ヲ嚴選セヲバナラヌ、保險約款ニハ、「地震ニ因ル火災損害」ト明記ヲ要ス、我國ノ火災保險普通約款ハ、此点ニ於テモ、愼重ノ用意ヲ以テ、「地震ノ爲メニ生ジタル火災」ト規定シテアル。

地震ノ爲メニ生ジタル、間接ノ火災損害、ノ除外ハ、前既ニ述ベタルガ如ク、學者ノ所謂、弱型ニ屬スル地震約款、ヲ採用セル諸國、ニ於テハ、之ヲ明記セヌ、保險者ノコノ過怠ハ、實際上、意外ナル不利益、ヲ來タスコトガアル、保險者ハ、其意思ニ於テ、當然除外セリト、確信シタル場合ニ、往々、反對ノ判決ニ接スルコトガアル、コノ用意ニヨリ、近代的ノ約款ニハ、必ズ間接損害ノ文字ヲ挿入スル、此点ニ於テモ、我國ノ火災保險普通約款ハ、間然スル所ガナイ。

元來、間接損害ナル言辭ハ、地震ト因果關係アル、各種ノ狀況、ヨリ生ジタル損害、ヲモ包含セシメ得ベキモノデアル、例ヘバ、地震ノ爲メニ、水管ノ破壞、ヲ生ジ、コ

レニヨリ、消火ノ機能、ヲ失墜シタルガ爲メ、火災ノ延燒、ヲ擴大セシメタル場合、ノ如キハ、慥カニ、地震ノ爲メニ生ジタル間接ノ損害、デアル。

(Witzleben, Die Erdbebenklausel in den Feuerversicherungs-Vertragen in d. Lischr. F. die ges. V'. Wissensch. 7. Bd. S379)

尙、間接損害ノ、狹義ナル解釋、ノ下ニアリテモ、地震ヨリ生ジタル火災、ノ延燒ヲ防止スルタメニ、官憲ノ命令ニヨリ、建造物ノ破壞、ヲナシタルガ爲メノ損害、ノ如キハ、地震ノ爲メニ生ジタル、間接ノ損害トシテ、火災保險者ハ、其塡補ノ責ヲ免ルルノデアル、此コトハ特ニ注意ヲ要スル点デアル、何トナレバ、若シ、地震ノ前提ガ、ナカツタナラバ、斯ノ如キ場合ハ、損害防止ノ原則カラ、火災保險者ハ、多ク明約ヲ以テ、其損害塡補、ヲナスモノナルガ故デアル、(友人三浦法學士ハ、其近著「地震約款論」(大正十二年十一月發行 巖松堂書店)ニ於テ、コレト異ナリタル解釋ヲナセリ。)

我國ノ火災保險普通約款ニ於テハ、「原因ノ直接ト間接トヲ問ハス、地震ノ爲メニ

生ジタル火災、及其延燒、其他ノ損害、」ヲ免責條項トナシタ、唯我國ニ於テ、被保險者ガ、損害ノ請求ヲナスニハ、其訴因トナルベキ事實、即チ自已ノ被保險物件ガ、火災ニヨリテ燒失シタル事實、ノ立証ヲ以テ足ル、而シテ、保險者ガ、コレニ抗辨セントスルナラバ、其理由トシテ、此火災ノ損害ト、前提タル地震、トノ因果關係ヲ、立証セネバナラヌ、コレガ、千九百六年桑港大震災以來、火災保險業者ガ、苦心シタ難点デアル、保險者ガ、嚴正ニ要求セラルル所ハ、訴ヘラレタル個々ノ火災ニツキ、一々、其原流ニ遡リ、歩一歩、推究シテ、火元ヨリ當該物件ノ燒失、ニ至ルマデ、其脈絡ヲ取リ、遂ニ地震ノ爲メニ生ジタル火災、ト其訴件トノ結合ヲナスベキ、長キ連鎖ヲ、立証セネバナラヌ、ソレ故ニ、此長キ連鎖ノ一關節デモ、途中デ解離シタナラバ、保險者ハ、直チニ敗訴セネバナラヌ、トセラレテヲル、サレド、コノ要求ハ果シテ、正イダロウカ、又果シテ、不可能ヲ人ニ責ムルモノデハナカラウカ、大正十二年九月、

東京市及ヒ横濱市ノ大部分ヲ滅盡シタル大火災ハ其地方ニ起リタル大震災ニ基因シタルモノナルコトハ、三尺ノ童子ト雖モ、之ヲ知ツテヲル、ケレドモ、其大火災ヲ、全体トシテ、総括的ニ觀察スルヲ止メ、其コレヲ構成スル、個々ノ火災ヲ、分割的ニ、部分トシテ觀察スルトキハ、何人ト雖モ、絶對ノ精確、ヲ以ヲ、之ヲ地震ニ歸セシムルコトガ、出來ルダロウカ、此ノ法律上ノ立証方法ガ、斯ノ如キ、事實上ノ不能ナル結果、ヲ導クコトガアツタナラ、コノコトガ、果シテ、法理上ニモ亦、正シイモノデアルト云ヒ得ヤウカ。

當事者ノ意思ヲ、解掊シテ見ルト、地震ノ發生及ビ其作用ハ、到底、人間ノ力ヲ以テハ、測度スルコトガ、出來ナイトイフノデ、合理的ニ經營スル、火災保險營業ニテハ、コノ危險ヲ除外シテヲリ、又除外セシメントシテヲル、トイフ双方ニ一致ガアル、地震危險ノ除外ハ、一方保險會社ノ意思、デアルト共ニ、又他方ニハ、一般公衆ノ利

益デアラネバナラヌ、我日本國ニ於テモ、東京横濱ノ如キ、大都市ヲ滅盡スルガ如キ、大震火災ニヨリ、我國全部ノ火災保險會社ヲ、破產ニ陷ラシメタト、仮定セバ、此震災ニ何等關係ナキ、幾百萬ノ被保險者ヨリ、保險ニヨル其財產保護ノ利益、ヲ奪ヒ、粒々辛苦シテ拂込ンダル保險料、ヲ空費、セシムルコトトナリ、果シテ、民衆ノ正當ナル利益、ヲ侵害スルモノ、デナイダロウカ。

茲ニ於テ、再ビ言フ、事實上ノ難点ハ、擧証責任ノ一点デアル。

擧証責任ノ問題ハ、獨リ火災保險ノ塲合ニ限ラズ一般ニ訴訟法上ニ於ケル、困難ナル問題ノ一デアル、裁判官ガ、唯單ニ、純粹ナル器械的方法ニヨリ、法文ノ解釋ヲ下シ、毫モ四圍ノ事情ヲ精究スルコトガナイナラバ、多クノ塲合ニ於テ、慘忍トカ、不公平トカ、寧ロ不正トカ、ノ結果ヲ來タスモノデアル、原告ハ其訴因トナルベキ事實、ヲ嚴格ニ立証セネバナラヌ、トイフ原則自身ニモ亦、幾多ノ例外モアル、例ヘバ、盜難保險ノ塲合ニ於テ、原告ガ、訴因トシテ立証スベキ事柄ハ、現金ヲ收藏セル手筐ノ鍵ヲ、盜賊ガ暴力ヲ以テ破リタリ、トイフ事實ト、次ギニハ、保險會社ヨリ支拂ヲ受クベキ金額、ノ存在アリシコトヲ、「蓋然的」ニ立証スルコトデ、足ルノデアル、其内ニ收藏セル、一錢一厘マデモ、嚴格ニ立証セネバナラヌナラバ、盜難保險存在ノ無價値、ヲ表ハスモノデアル、茲ニ裁判官ハ器械的ノ法理解釋ヲヤメテ、原告ノ人格ニツキ、公正ナル考察ヲ下シ、其正否ヲ判斷セネバナラヌ。

裁判官ハ、訴訟事實ノ証明、ヲナサシムルニ當リ、一点ノ疑ヲ存セザル如キ確實、ヲ要求スベキモノデナイ、否、一方被告ヲシテ、反証ノ可能、ニ其途ヲ與ヘル積リデアレバ、原告立証ノ方法ニ、「高度ノ蓋然性」、ヲ認メレバ足ルノデアル。

之ヲ本論ノ塲合ニ適用スレバ、火災保險會社ノ擧証ノ責任ハ、「問題トナレル保險目的物ハ、地震ノ爲メニ生ジタル、火災區域内ニ於テ、燒失シタリ」トイフ、簡短ナ

ル立証、ヲ以テ十分デアル、茲ニ於テ、始メテ訴訟法上ニ所謂、「事實上ノ推定」(tatsachlichen Vermntungen) トイフ範圍ニ入ルコトトナル、「事實上ノ推定」ノ範圍ニ入ルトキハ、現今一般ニ認メラレタル、訴訟上ノ原則ニヨリ、ソノ上ニ証明ヲナスコトヲ要セヌノデアル、何トナレバ、其事實ハ、世間一般ニ、何人ト雖モ知ッテヲル事實デアルカラデアル。

此「事實上ノ推定」ノ範圍、ヲ定メルニハ、燒失シタル建物ガ、所謂「大火區域ノ内」(innerhalb des konflagrationsbezirks) ニアルカ、或ハ「大火區域ノ外」(ausserhalb des konblationsbezirks) ニアルカニヨリテ、區別セネバナラヌ、燒失物件ガ、「大火區域ノ内」ニアルトキハ、地震ト因果關係ノ存スルコトハ、「事實上ノ推定」ガ語ルノデアル、保險者ハ、ソレ以上擧証ノ必要ガナイ、被保險者ハ、之ヲ否定シテ、自已ノ被保險物ヲ燒失シタ所ノ火災ハ、地震ト何等ノ關係ヲ有セヌ、ト主張セントスレバ、其証明ヲナスコトハ、寧ロ被保險者側ニアルノデアル、被保險者ガ、其目的ヲ達スルタメニハ、自已ノ家屋ノ、燒失當時ノ事情ヲ調査シテ、附近ノ家屋ガ、其當時未ダ何等火災ニ罹ラザリシニ、自已ノ家屋ダケ燒失シタ、殊ニソノ地區ニ於ケル發火ハ、地震ノ爲メニ生ジタモノデナイ、トイフコトヲ、立証セネバナラヌ、之ニ反シテ、「大火區域ノ外」ニアル被保險物、ノ燒失ニツイテハ、火災保險會社ガ地震ト火災トノ因果關係、ヲ立証セネバナラヌノデアル。

歐米ニ於ケル、此種ノ判決例ハ、殆ンド一致シテ、「ダイナマイト」ニヨリテ、破壞セラレタル損害ハ、例外ナシニ、地震ノ爲メニ生ジタル損害、ト認メラレテヲル、被保險者ガ、其反對ヲ主張セントナラバ、自ラ之ヲ証明セネバナラヌノデアル。

「大火區域ノ外」ニアル被保險物件ガ、燒失シタルトキ、火災保險會社ハ、地震トノ因果關係ガ、單ニ「消防機關ノ破壞」ノ一点ニ留マリ、而カモ地震ノ爲メニ、間接

ニ生ジタル損害、トシテ請求ヲ拒否セントスルトキハ、如何ナル立証ヲ必要トスルヤ、ソレニツイテハ、會社トシテハ、次ノ如ク立証スレバ十分デアル、即チ、正常ナル狀態ノ下ニ、（正常ナル狀態トハ、晴天ニ於ケル發火、家屋居住者ノ現在、消防隊ノ近存、完全ナル水道設備等、）於テ、地震ニ因リテ起リタル、「消防機關ノ破壞」、サヘナクンバ、此ノ火災ハ、「凡テノ蓋然性」ヲ以テ（mit aller Wahrscheinlichkeit）其發火ノ後、直チニ、鎭火セラレタノデアロウ、トイフ証明ダケデヨイノデアル

（Ernst Drumin, Die Beweislast bei der Erdbebenklausal in d. Ltschr. F. dieges. V-Wissensch. 7. Bd. S.377）

被保險者ニ於テ、否、此火災ハ地震ナシデモ、此物件ヲ燒失シタノデアロウ、トイフコトヲ証明セントスレバ、被保險者自身、之ヲ立証セネバナラヌ。

終ニ臨ミ、地震約款以外ノ方法ニ於テ、地震火災ノ問題ヲ解決スベキ傾向ガ、米國ノ保險業者間ニ發生シタル事實、ニツイテ、一言セント思フ、此計畫ハ、火災保險業者ガ、寧ロ進ンデ、地震火災危險ヲ經營セントスル計畫デアル、此潮流ハ、英國保險業者間ニモ、稍多少ノ賛同者ヲ生ジ、現ニ實行スルモノアリ、ソレハ、「附加保險料」(additional Premium) ノ收得ニヨリテ、一般ニ地震火災保險ノ經營ヲナシ、從テ地震約款ヲ廢棄セントスルモノデアル、此計畫ハ、世界各國中、地震危險ノ、比較的少ナキ地方ノミニ、採用スレバ、言フ迄モナク、保險者ニ有利ノモノナレドモ、カクテハ、地震國ト稱スベキ我國ノ如キ、到底賛加ノ可能性ナキモノナルヲ以テ、眞ニ此計畫ヲ實現セントスルナラバ、世界各國ノ火災保險業者ヲ、打テ一團トナシ、廣汎ナル地域ニ、相互救濟ノ意味ニ於テ行フ外、實効ナカランカ。

地震約款廢棄ノ對策トシテ、主トシテ米國ノ輿論ニヨリ支持セラルル第二案ハ、地震危險ヲバ、原則トシテ、全然火災保險契約中ニ包含セシメ、第一案ノ如ク、附加保險料ノ名義ヲ以テ、別ニ割增ノ保險料ヲ徵收スルコトナク、此對價トシテハ、一般ノ

火災保險料率ヲ高メ、コレニヨリテ、此不慮ノ大損害塡補ノ資ニ當ツベシ、トイフニアリ。

此議論ハ、大体關東大震災ニ對スル應急ノ策トシテ、目下我國朝野ノ間ニ研究セラルルモノト、甚シク近似スルヲ以テ、純然タル學究的ニ、本問題ヲ論ジ來リタル我輩トシテハ、之ヲ可否スルヲ好マヌガ、茲ニモ亦保險研究者トシテ、單ニ保險技術ノ上ヨリ批評スレバ、火災保險ノ合理的經營上、實行不可能ナルモノデアルト思フ、何トナレバ、担保スベキ對象タル、地震ニ因ル直接間接ノ損害ハ、人力ヲ以テシテハ、到底其近似數ダモ、測定スルコトガ出來ナイ、我輩ノ考ニテハ、火災保險中ニ、地震危險ノ原則的加入、ハ斯業ヲ馳テ、遂ニ投機ニ導キ株主トシテノ拂込金、多數被保險者トシテノ拂込保險料ハ、一ノ賭金ト化スル虞ナキヤヲ疑フ、然レドモ、世界各國ニ於テ、人心多ク射倖心ニ富ムコトハ、蓋シ人情ノ弱点ニシテ、多數ノ世論ハ、火災保險者ヲ强要シテ、地震危險ニツキ支拂セヨトイヒ、地震ヨリ生ズル、大火ノ大損害ヲ冒險セヨト敎ヘ、手ヲトリ、足ヲトツテ、合理的保險業者ニ、地震危險ノ負担ヲ迫ル、嗟。（大正十三年一月十日稿）

【非賣品】

895
615

終